

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	日々の生活の中で理念に沿った介護が出来るよう、職員間で話し合っている。	法人の理念に基づき、作成されていました。「てとと」とは手と手を、てととと歩く、そんな意味合いを込めて職員間で話し合わせられ作成されていました。理念は多目的スペースに提示され、身近に感じるものでした。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元中学生と交流をしている。例年は訪問交流を行っているが、今年度はコロナ禍の為オンラインで2日間交流している。	計画はされていますが、コロナ禍のため制限されていました。県内の感染警戒レベルが低下し、徐々に家族との面会が行われていました。地域の文化祭に作品の出展を行うなどできる交流をしていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	おみ図書館のボランティアによる読み聞かせや本の貸し出しを行なっていただいている他、村の文化祭に利用者様の作品を出展する予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	3ヶ月に一度を目安に定期的を実施していたが、コロナ禍の為開催を見送っており実施できていない。	運営推進会議はコロナ禍で実施されていませんでしたが、電話や書面で行っていました。行政と相談しながら年内に会議を開催し、サービスの向上を図りたいと検討されていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	麻績村と筑北村両村の福祉担当者と利用者様の状況を報告するなど、連絡を取り合っている。	二村の福祉担当者と連携し利用者情報の報告を行っていました。「てとととだより」によりコロナ禍での日常生活やサービスの取り組みをお知らせしていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関には施錠せず、自由に出入り出来るようにしている。ベッド柵の設置をしている方については、定期ミーティングで必要性の確認をしており、ご家族様には必要性の説明を行い、同意を得ている。	月一回の会議の中で、「こんな介助はどうか、声掛けはどうか」と検討されていました。個々の職員にも面接を行い意識を高めました。ベッド柵については家族に説明し承諾もされていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日頃から職員同士、利用者様に対する態度や言葉遣いに注意し、虐待に繋がることの無いようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者の人的環境や判断能力等の状況をみて、常に職員同士で話し合い、家族と相談し、個人の支援につなげている。制度に準ずるよう自治体担当者に確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は文書、書類を提示しながら説明を行い、問い合わせがあった際は確認して、不安や疑問の解消に努めている。コロナの影響で家族とは直接会う機会が少ないため、電話連絡により説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍により、面会制限のあるなか、電話、お手紙などにより生活の様子を伝えている。問い合わせ、要望等には即対応し、入居者と家族がつながりが深まるよう努めている。	コロナ禍で、制限がありましたが「てととどより」や電話で様子をお知らせし意見を反映させていました。遠方の方には、天気が良ければ、戸外での面会を行い、いろいろ工夫をされていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の管理者会議で職員の声を法人役員に伝えている。本年は一般職員と法人役員の懇談の場を設け、運営側と介護現場との意見交換をした。	職員の意見が反映されるように、法人役員との懇談会を行うなど、現場の意見が反映されるよう取り組みがされていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者、またはリーダーが職員一人ひとりの状態に気を配れるよう努めている。職員の体調不良時には気兼ねなく勤務交代できるように、要望に耳を傾け、シフト調整、業務の見直しを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ感染予防の観点から、社外研修がままならない状態だったが、研修受講の促進を図り、内部研修の計画を進めている。ミーティングも実施し、活発に意見交換している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ感染の影響により、電話などを通して情報交換するなど、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本音が出やすい入浴の時間等に、「何か困っていることはありませんか」と話や想いを引き出すようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会や家族対応での通院時等、顔を合わせた時に、生活の中で気になることを確認したり体調について主治医の見解の中からどうしていくか等、相談していくよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所申し込み時に担当ケアマネの意見も参考にしながら、ホームで対応出来るサービスを希望されているかを確認し、細かい聞き取りを心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	以前からの広告畳み・ウエス切り等の作業を継続して行っており、作業をしながら昔と今はどうかと比較しながら話をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	現在面会をお断りしている為、直接面会出来ない分、毎月送付しているお便りで様子をお伝えしたり、利用者様にご家族様と電話で話す支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	主に村内の主治医の所へ通院した際に、知り合いにお会いした時は職員が中に入って会話が弾むよう支援している。	地域の方との交流は日常的に行っていましたが、コロナ禍のため安全を第一にされていました。そんな中でも野菜の差し入れ等は頻繁にあり、調理しながら「どなたの差し入れ」など話しているとのことでした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	フロアの席を固定せず自由にし、誰とでも話をしながら過ごせるよう支援している。余暇の時間は同じ趣味の方で自然と集まり、好きなことをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ホームを退所された利用者様が入所された施設の関係者に折を見て、様子を伺うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	手作業をしながらだったり、居室にいる時だったり、一対一で話をするタイミングを持ち、本人の意見や想いを受け止めている。	日常的に寄り添い話を聞き、手芸や文化祭の作品作りを話しながら一緒に行い、聞き取っていました。本人の希望は介護計画にも記載されていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人との対話の他、ご家族様からの聞き取りや前に利用していた介護サービスがある場合は担当ケアマネ等からの情報も大事にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日によって違う体調や心身状態は、申し送り等で職員間で共有し、その日に合った対応を話し合いながら行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画の原案を元に、ご家族様からの意見も確認しつつ作っている。また、本人にも取り組んでもらう項目をなるべく入れるようにしている。	支援の様子や本人、家族の要望を聞き取り介護計画に記載していました。「とてとだより」には利用者の作品が掲載され、役割を持ち意欲的に生活されていることが伺えました	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録のほかに、ノートでケアに関する気づきや工夫を出し合い、ミーティング等で定期的に話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	昨年から続く新型コロナウイルスによる面会制限の影響があり、直接面会が出来ないことから、毎月のお便りにお一人お一人の担当者から状況のお手紙を同封するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地元中学校との定期的な交流を通して、地域との繋がりを持つと同時に、ホーム側は楽しみを、中学校側は福祉体験とそれに関する学びを得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	以前からの主治医へかかることは大切にして継続し、状態によっては別の専門医への受診も提案し情報共有を行っている。	かかりつけ医等の通院は、入所時に説明されていました。コロナ禍の為通院の付き添いは事業所で行い、家族に報告されていました。状況により家族の同席も行われていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申し送り用紙を通して看護師へ体調変化や皮膚異常等、確認してほしい事項を申し送っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態について、電話にて連絡を取り、実際にカンファレンスに参加するなどして、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時にご家族様から提出され聞き取りを行った意向調査表を現在の状態を元に定期的に内容確認・更新をしている。	入所時に終末期看取りケアの説明を行い、事業所での取り組みの説明や適切な機関との話し合いを行っていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	防災訓練時に行っていたため、コロナのため防災訓練を中止にしている現在、別の形での訓練の実施を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	近隣市町村の天気予報も参考にしながら、村役場とも連絡を取り合い、避難実施について話し合うようにしており、地域住民の方も気にして声をかけていただいている。	立地的に災害の危険が懸念される為しっかりした対策が取られていました。特に洪水に対して、情報の収集、対応が検討され、避難場所の公民館の鍵は常時管理され、早目の対応ができるようになっていました。	洪水時の浸水想定区域に指定されており、水防法に基づき洪水時の円滑な避難計画が策定されています。自治会等地域の協力を得て一層の安全の確保をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	元気が出るような明るい声で声掛け・挨拶・話をし、体調の様子を気にしながら対応をしている。	理念に基づき、個々の尊厳を大切に、お互いに支え合える環境の提供、家庭的な温かさを心がけていました。ホームだよりにはにこやかな写真の掲載が多く見られました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の希望・思いを聞き、今何をしたいか・食べたいか等、自分で決定出来るように手助けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望を優先するようにし、塗り絵や散歩、ゲーム等やりたいことをやってもらいながら、一人一人が一日ゆっくり過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容時、鏡を見ながら自分で髪を梳かしセットしてもらっている。ご家族様の協力も得ながら、馴染みの理容店で散髪やカラーリングをしたりご家族様に散髪をしてもらっている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の下ごしらえ等一緒に行っている。二人一組になり、一日交替制の食器拭き当番を組んでいる。その季節での漬物を漬ける作業に参加してもらっている。	地域の方の野菜の差し入れを一緒に下ごしらえし、食事作りをされていました。献立はありますが変更されることもあるようです。楽しく話しながらの食事作りがされていました。梅や奈良漬はおいしくできていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の食事を通して卵・魚・肉を主菜とした献立を立てている。午後のお茶菓子は手作りを主としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを促している。義歯の消毒は毎晩実施している。その他、状況に応じて歯科医師に相談して診てもらう等している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレ時のパット確認を実施している他、トイレに行く間隔が空いている場合、声掛けをしている。また、歩行が不安定な方でも夜間は車イスでトイレに行っていたりしている。	排泄支援は自立に向けて行われていました。老健から移られた方はオムツからリハビリパンツに改善されていました。夜間は二人体制のためトイレでの排泄を支援していました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の有無について排泄表を付けて確認をしている。水分の摂取・献立の調整・下剤の配薬等、その方に合った支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	曜日や時間帯はこちらで決めてしまっているが、なるべく入浴する順番やタイミングは本人の希望に沿うようにして、楽しいひとときを提供出来るように心掛けている。	入浴は週二回、一日三人とし、ゆっくり個浴で行われていました。一人で入浴を希望される方もいます。安全のため見守りは行っています。同性介助もできていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の身体状況・居室の位置によって最適と思われる場所にベッドを配置している。布団は季節も考慮しながら本人の好みを聞いて、その時に適した物を使ってもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服している薬の種類・副作用等は職員全員が把握・理解するように心掛けている。変更があった場合は書式を用いて申し送るようにし、各自確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日当番制で食器拭きを行ってもらっている。また、洗濯物干しや洗濯物たたみ等の家事、編み物や縫い物、刺繍等の昔からの趣味を行う機会を作っているようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調や天候により、外気浴やホーム周辺を徒歩で散歩する機会を持っている。利用者の機能低下やコロナ禍により外出支援が減少していることを意識し、季節に応じて花見やドライブ等の外出計画を立てている。	コロナ禍のため買い物や外食支援は制限されていましたが、自然に囲まれた立地のため天気が良ければ散歩しながら歩行の機能訓練が行われていました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分で金銭を所持・管理されている方がいる。通院時にはご自分で支払われる時、間違いなく支払われているか声をかけ確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を所持・使用されている方がいて、ご自身のタイミングで通話をしている。操作に困っている時は職員が手助けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	こまめに換気を行って新鮮な空気が入るようにしている。季節の花を飾ったり切り紙を壁に貼ったりし、毎日楽しい雰囲気でも過ごせるように支援している。	緑豊かな環境、紅葉のきれいな中、居心地のよい空間が提供されていました。コロナ禍のため居室の見学は行いませんでしたが、共有空間は利用者の作品が飾られ温かい雰囲気がありました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアに図書館から借りている本や週刊誌を置き、いつでも読めるようにしている。壁に沿ってソファを置き、テーブルから離れて静かに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人が使っていた馴染みのある物や家族の写真、日記等があり、すぐ見える所にカレンダーを置いたりして毎日使うものを自分で整理している。	今までの生活を大切に、使い慣れた物の持ち込みがされていました。利用者家族調査では家族にはできない日常生活をきめ細かくケアしていただき感謝していると記載されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや洗面所を中心に、手すりを持つ順番にテープを貼って分かりやすいように視覚支援を行っている。		